

竹川病院 博田 俊行 (MSW/主任)

功 績 患者さんの立場になって考え、患者さんが置かれている状況、環境をMSWの立場でできることを提案。その結果、患者さん・家族の負担・不安の軽減、当院のベッドの有効活用、稼働に繋げている功績。

推 薦 者 矢吹 周二

推 薦 理 由 当院相談室も新人が3名入りましたが、近隣紹介元医療機関も新人の顔ぶれが増えてきました。今回のように、患者さん、ご家族が毎日少しでも気持ち良く過ごせる環境を提案したことは、稼働だけでなく、弱い立場になって考え、行動していることに繋がりが、MSWとして、また他の模範となるべきことだと思います。これからも、患者さん、家族、相談室スタッフはじめ院内スタッフ、紹介元のスタッフに頼られる存在であって欲しいと思います。

内 容

博田は、主に紹介元からの転入院の相談、紹介受付を中心として、他MSWの業務に従事しています。今年度は3名の新人が入り、また、自身も主任として、指導や各新人MSWからの相談に乗っています。ある時、圧迫骨折の患者さんについて気になることがありました。圧迫骨折の患者さんは、回復期リハビリテーション病棟の入院条件該当の患者さんですが、大腿骨頸部・転子部骨折の患者さん、脳疾患の患者さんに比べて多くはありません。また、圧迫骨折の患者さんは安静加療が中心となり、急性期病院では、診察後の入院受け入れが難しく、自宅安静を進めることが多いことがわかりました。そのようなことから、医師から転院の窓口であるMSWへの転院依頼も少ないことがわかりました。

そこで、博田は、院内スタッフの協力のもと、圧迫骨折の患者さんの転院を進めるべく、転院案内のリーフレットを作成。まずは、主な急性期病院のMSWにご挨拶訪問方々、説明に出向き、担当医の先生方にも説明して頂くようお願いしました。また、医局訪問、会合等で先生方とお会いできれば、直接説明、お話をさせて頂きました。その結果として、8月には急性期病院から当日紹介、当日入院というまれな紹介入院を獲得しました。今迄、患者さん、ご家族が痛みや不安を抱える中での自宅療養から、回復期リハビリ病院で、状態を見ながら、リハビリをし、その後、自宅へ帰るといった形態が増えてきました。当院の稼働にも繋がることですが、患者さんの気持ちに寄り添い、安心と安全な環境を提案しているところは、他の模範となる所です。患者満足度にも繋がる行動であり、今後も患者さん、ご家族に気持ち良く利用して頂けるよう、手助けをしていってほしいと思います。